

佐賀市 15 歴史探訪

たくやしきみなみ すいろいこう 多久屋敷南の水路遺構

多久家は龍造寺隆信の弟長信を祖とし、その子安順(やすとし)のときから多久姓を名乗りました。隆信没後の龍造寺一族は、鍋島政権下に組み込まれ、佐賀藩政の一翼を担う重臣家として存続しました。この多久家は、佐賀藩政下では武雄鍋島家、諫早家、須古鍋島家と同列の、「親類同格」家と位置づけられ藩経営のリーダーである「請役家老」を務める家でした。

鍋島佐賀藩体制に組み込まれた龍造寺一族は藩経営でも中核的存在でしたので、その城内屋敷地も広大な土地が与えられています。そこは、佐賀城建設の基礎となった龍造寺氏の居城「村中城」の二の丸に当たり、鍋島家の配慮がうかがわれます。

多久屋敷跡の南北範囲は、県庁南側の道路から県庁南別館駐車場までと推定されますが、今では、その輪郭はほとんどわからなくなっています。この屋敷地の南限が昭和62年の埋蔵文化財の確認調査で明確になりました。調査では、水路護岸基礎が発見されました。佐賀城絵図に当てはめてみると多久屋敷と百間蔵の間にあったものと認定できるものでした。

このとき検出した水路護岸基礎の上には、県公用車車庫が建っていますが、その建設の際には、掘削が石垣護岸基礎を壊さないように配慮されました。

現在、県庁南別館駐車場には、石垣護岸に関する説明板と標柱が建っていますので、城内散策の折にでもご覧ください。また、駐車場中ほどには東西南北に楠が数本並んでおり、それが水路の存在をしるばせるものとなっています。



▲調査箇所につつ説明板、標柱



▲県庁南別館駐車場に残る、水路を推定させる楠群



公用車車庫建設に伴う調査で発見した石垣(部分)



◀石垣の下部には沈下を防ぐため「はしご状胴木」を用いている



佐賀城分間御絵図 ()内は現在の建物



周辺見取り図

※この情報は、「市報さが 平成13年6月15日号」に掲載されたものに、平成22年3月に加筆修正を加えたものです。